

平成29年度に実施した東橋いちい認定こども園の自己評価の結果についての関係者評価の概要は次のとおりです。

1 本園の教育保育目標

- ◎思いやりのある子
- ◎考え工夫する子
- ◎明るくたくましい子

2 重点的に取り組む目標・計画

- ① 乳幼児理解を深め、乳児と幼児の積極的な交流
- ② 保育環境整備や環境構成の創意工夫
- ③ 地域を身近に感じる保育の工夫
- ④ 保護者理解と連携の強化

3 評価項目の達成及び取組み状況

(A：成果を上げている。B：ある程度成果を上げている。C：もう少し努力が必要である。D：改善が必要である。)

評価項目	達成及び取組み状況	関係者評価	
		評価	意見等 (○良い ●課題 ☆要望)
「教育保育の計画性」について 自己評価 「B」	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年反省として挙げられていた自らの意識として「園の教育保育理念・目標の理解」が足りなかったことについては、今年度は意識しながら保育に取り組めたことが評価として挙げられ良かった。 ・指導計画については、日々の保育に直結することもあり、よく考えながら計画的に進めることができたが、子どもの実態に合わせながら順応性をもち保育するまではいかなかった。 ・環境保育については、昨年も反省点が多かったため、今年度の重点目標にも入れたことや園内研究のテーマとしても取り上げたこともあり、今までよりは、目を向け考えることができたと考えるが、考えるきっかけや視点が広がったことに留まっており、自分なりに保育に活かすまでにはなっていない。 ・昨年に続き、学園の取組みとしても「教育保育課程・指導計画」の見直しを細かく行ったことにより、さらに、意識が高まり良かった。 	B	<p>☆指導計画はあくまでも計画であり、目の前の子どもたちの実態を捉えて、変更したり、強調したりしながら、きめ細やかな指導をしてほしい。</p> <p>●指導計画が達成できたかどうかの評価日を一年の中で何回か設けた方が良いと思う。子どもの実態は日々変わると思うし、順応性をもった保育へ繋げるためには、評価日を細かく設定しないと反省だけで終わってしまうと思われるため検討を要する。</p>
「教育保育のあり方、幼児への対応」について	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の園児に丁寧に接し、それぞれの成長や発達、性格等に合わせた援助を日々考えながら行うことができたと考える。 ・健康安全面については、日々の「確認の会」や定期的に行う会議等で「ヒヤリハット」を出し合うことにより、各自の意識と緊張感を高めることができた。しかし、予測しきれいいなかったところで、怪我が発生してしま 		<p>☆常に子どもの安全・安心を職員一同意識し、「何か起きたら」というよりも「起きないように」という視点で日々教育活動を展開してほしい。</p>

<p>自己評価 「A」</p>	<p>ったこともあったため、園児の遊びの理解とともに、その後の予測をしながら対応することを今後も園としてしっかり行いたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育者同士の連携では、今年度の園内研究を通して他学年の子どもの育ちや遊びの興味・関心に目を向け考えることができたこと、他クラスとの関わりがもてるような保育を取り入れたこと、保育後の作業等では互いに声を掛け合い皆での作業を行うなど、皆が意識しながら連携できるようになってきたことが評価できる。 	<p>B</p>	<p>☆個人懇談などで家庭内での「ヒヤリハット」、その園児の特徴などを聞くことで、その情報から予測できるものもある。園と家庭それぞれの状況を共有することで、家庭内での安全教育にも役立ててほしい。</p> <p>☆「～するだろう」ではなく「～かもしれない」という危険予知は大切なことだと思う。「ヒヤリハット」の事例をまとめ、職員の目にとまる場所へ置き、いつでも読める環境を作ったりするなど意識をより高めてほしい。</p>
<p>「保育者としての資質と能力」について 自己評価 「A」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・この項目に関しては、各保育教諭が意識を高くもち実行できていたと感じる。各自で意識し努力することはもちろんであるが、職員間でも意識し合い、互いに高められる職場環境や雰囲気作りに引き続き努めたい。 	<p>A</p>	<p>○これからも、明るく元気な職場づくりを期待する。</p>
<p>「保護者への対応」について 自己評価 「B」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的には、一つ一つ丁寧に対応できたと考える。また、様々な対応について、各保育教諭が一人で抱え込むことなく、他の職員と相談し合いながら対応できたことについても良かったと感じている。 ・しかし、各保護者に対して園の考えや保育について、子どもの園生活や成長の様子などを発信することはできたが、必要とされることで留まってしまい、積極的に行うところまではいけなかった面もあったため、今後も努力したい。 	<p>C</p>	<p>○園での成長の様子、悩みなどいつも相談にのっていただき感謝している。</p> <p>●保護者を部外者として捉えるのではなく、園と協力して子どもを育てる仲間として捉えてほしい。それには、園の様子、子どもの成長の様子を定期的に伝える努力が必要である。</p>

			<p>●乳児クラスと幼児クラスでは、対応する保育者の人数や方針の違いがあるため、根本的な違いを明確に伝えることで、保護者の戸惑いを軽減することができるのではと思うので、検討すべきではないか。</p> <p>☆保護者へのアンケート調査を行い、疑問や問題点についての意見も加味した評価であることが望ましい。</p> <p>☆学年毎のクラスで過ごす時間よりも、異年齢のぶどう組で過ごす時間の方が長い場合、保育園部門の保護者に対して、学年のクラス担任とは別に、ぶどう組担任との面談がある方がより安心して子どもを預けられると感じたため、検討を希望する。</p>
<p>「地域の自然や社会との関わり」について</p> <p>自己評価 「B」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の自然や環境については、日常的に行っている散歩や公園遊びを通して、意識を高めながら理解することができていると感じる。しかし、それぞれの担当クラスのみでの認識で終わってしまいがちであったため、日々の「確認の会」で報告し合うようにしたところ、効果的であった。しかし、まだ習慣化しておらず、各保育教諭間の情報共有に繋がっていない面も見られたため、さらに意識が高まるよう工夫したい。 ・例年実施している東橋小学校や地域の子育てサロン、老人クラブとの関わりについては、今年度も実施でき地域の方々のご理解やご協力に感謝している。しかし、新たな関わりをつくることはできなかったため、次年度も 	A	<p>○日々の「確認の会」をこれからも大切にしてほしい。また小学校とのかかわりをこれからも密にしてもらいたい。</p> <p>○地域の自然と言っても菊水は割と都会に位置するので限度があると思う。季節感を感じられるような活動は、ちゃんとされていると思う。</p> <p>○小学校や子育てサロン等と</p>

	様々な機会を模索したい。		の関わりは、園にはない刺激を受ける良い機会のため、続けてほしい。
「研修と研究」について 自己評価 「B」	<ul style="list-style-type: none"> ・研修については、園として参加が必要とした研修や必須の研修（新人研修、2年次研修、特別支援研修）に参加することで終わってしまい、自ら選んで積極的に参加する状況ではなかったことが残念であった。参加したい研修を選んだり、研修に参加しやすい職場環境づくりを改めて考えたい。 ・園内研究は、今年为主题や実践内容が、全職員が関われるものだったため、より自分のクラスの子どもの成長を考える機会になったり、他の学年の育ちに合わせた遊びや遊び方などを皆で一緒に考え合う良い機会になったことを評価している。 	B	<p>☆保育教諭が小学校の授業参観をしたり、逆のパターンも有ったりするので、研修の一環として今後考えてもらいたい。</p> <p>●指導計画の見直しや、園内研究への取組みが評価内容に含まれても良い。外部での研修は、年度初めに、研修に対する個人目標を設定すると、参加を促しやすくなるのではないか。</p> <p>●研究や研修のことについては、保護者からは全くわからないものになっていると思う。このような研究をしていますなどの様子や内容をどこか掲示板に掲げる等したら、周知されるきっかけになるのではと感じた。</p>

4 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

目 標	具体的な取組み計画	自己評価	関係者評価	
			評価	意見等
<p>① 乳幼児理解を深め、乳児と幼児の積極的な交流</p> <p>自己評価 「A」</p>	<p><乳幼児理解について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「教育保育課程・指導計画」の見直した部分の確かめをしながら保育を行い、より理解を深める。 ・30年度から施行予定の「幼保連携型認定こども園教育保育要領」の改訂のポイントも意識しながら取り組む。 ＊学年部会の内容の充実 ＊会議等の内容の吟味 ＊園内研究の場の活用 ＊外部研修の活用 <p><乳児と幼児の交流について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの成長段階をしっかりと伝え合いながら無理なく実践できるよう、重点的に取り組み、互いに良い成長に繋げる。 ＊指導計画に位置付け取り組む。 ＊それぞれの学年が落ち着いてくる2学期から徐々に始める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度行った「教育保育課程・指導計画」の見直しを実践すると共に、「幼保連携型認定こども園教育保育要領」の30年度施行に向けて学園での基底編改訂会議も行い、さらに理解を深めることができた。また、「幼保連携型認定こども園教育保育要領」改訂のポイントの研修にも参加し、確かめを行うことができた。 ・園内研究を通して「子どもの興味・関心に合わせた遊びや引き出す遊び」について考え合い実践に繋げることができた。 ・乳児と幼児の交流については、昨年度より実践を重ねることができ、子どもたちの同士が互いを意識し優しさや思いやり、憧れなど様々な思いに繋げる経験ができた。今年度は取り組み始めるのが遅くなったため、次年度はより計画的に進めたい。 	A	<p>○乳児と幼児の交流は、得るものが多々あるので、今後も続けてほしい。</p> <p>○乳児と幼児の交流は、子どもにとっても印象に残る活動だったようで、特に下の子を思いやる気持ちが芽生えたと思うので、今後も続けてほしい。</p>
<p>② 保育環境整備や環境構成の創意工夫</p> <p>自己評価 「A」</p>	<p>今一度、子どもの成長に繋がる環境構成を日常の保育の中で考え取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育の中での工夫や、園全体の環境整備など、意識的に取り組む。 ＊園内研究の取組み ＊園庭環境の見直し 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育環境整備は、園全体としての観点で考えた。主に園庭の遊具の配置や補修等。(鉄棒の移設・丸太遊具の埋め替え・日よけテントの設置など)を行えたことは良かった。 ・今後も今ある環境を当たり前の固定された 	A	<p>○子どもたちが一日のうちで長い時間を過ごす園環境は、子どもの成長に大きく関わってくる。常に子どもたちの様子を観察し、子ども第一の環境整備をしてもらいたい。</p>

	<p>*学園図書委員会の取組みを活かす。</p>	<p>ものと捉えず、子どもたちにとってどんな環境が適しているかという視点を持ち、環境整備に努めたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・また、園内研究を通して、園庭の環境構成（主に遊びの道具など）を季節ごとに見直しをしたことも様々な視点から考えることができ、良かったと感じている。 ・学園の図書委員会の活動を通して、今までの図書に対する視点を見直す、改めて考えるという動きとなったため、それに伴い園の図書を整理した。大きな変化はなかったが、この機会に子どもたちの大事な環境のひとつである図書の環境について考えることができ良かった。次年度に活かしたい。 		<p>○園庭の季節ごとの見直しは、良い取組みだと思う。</p> <p>○保育の環境も、外から見ていて「なんだかおもしろそうだなあ」と思ったことがあった。子どもたちの興味を引くような工夫が研究を通してどんどん増えることを期待している。</p> <p>●図書の取組みについては、今後取り入れたい絵本のコンセプトなどを保護者に伝え、家庭からの古本を寄贈してもらったり、分別を保護者に協力してもらえると、早く充実させることができるのではないかと。子どもが直接手に取るものなので、作業に携われる保護者は嬉しいと思う。</p> <p>○園の図書室の壁面に工夫が見られていて、こんな絵本があるんだと思ったことがあった。絵本図書館のようで素敵だと思ったので、今後も続けてもらえたら子どもたちも喜ぶと思う。</p>
<p>③ 地域を身近に感じる保育の工夫</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「地域の理解や地域とのかかわり」についても、意識を高める。 ・それぞれの年齢によりできることが違うた 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、日常的に行っている園周辺の散歩や近隣の公園などでの遊びについて、地域のことをもっと知り、それを園として共 	<p>A</p>	<p>○子どもが地域を身近に感じるためには、職員が地域を身近に感じているかどうか</p>

<p>自己評価 「A」</p>	<p>め、それぞれの気づきや工夫を伝え合える機会を設ける。 *近隣への散歩での発見や気づきなどの情報を共有する。 *園開放を通して、地域の方々との関わりをもつ。 *地域の子育てサロンとの関わりをもつ。</p>	<p>有できるようにという意識のもと、日々の保育を行った。それによって気づきや発見が増え、日々の「確認の会」等で情報共有し、活かすことができた。 ・園開放では、全職員で関わられるよう乳児クラスの職員も出し物をするなどしながら参加することができ、年齢に合った出し物を見せることができたことが良かった。次年度は、さらに、地域の方々に親しんでいただけるよう、園児との交流をしたり身近に園の保育を感じてもらえるよう考えたい。 ・地域の子育てサロンとの関わりでは、当園が会場になる際には、園児と一緒に遊んだり、地区センターにも園児と共に参加し、歌や踊りを披露するなど、成長の見通しや今後の期待感へ繋がる活動ができ、良かった。</p>	<p>前提となるため、努力を続けてほしい。 ○子どもが1歳の時、入園前の園の様子を知るために、園開放に参加した際、幼児向けの内容だったので、乳児クラスの職員が出し物をしたり、話ができるのはとても良い。 ☆これからは、子育て支援に対する園の役割も重要視される傾向にあるため、子育てサロンでは、家庭でできる遊びの方法や、保育の工夫、子育てに関する情報の提供も積極的に行ってほしい。</p>
<p>④ 保護者理解と連携の強化 自己評価 「B」</p>	<p>〈保護者理解について〉 ・課題が多いことから、引き続き努力する。 ・保護者理解のために、出来ることは何かを職員間で常に意識して具体的な事例などを確認し合いながら進める。 *様々な面から考えられるように、色々な機会(確認の会や学年部会等)で具体的な話をしながら、理解を深める。 〈連携について〉 ・連携するには、保護者理解が重要との考えを基に取り組む。 *どのようにしたら連携の強化に繋がる</p>	<p>・保護者理解・連携を、丁寧に行うことを心がけることができた。また、他クラスのトラブルや保護者からのご意見などを日々の確認の会で情報共有をし、どの職員が対応しても共通の対応ができるよう心がけた。 ・また、子どもの良い姿や成長の面なども出来るだけお伝えできるようにしてきた。どの家庭にも、同じような連携ができるよう連絡した内容や日付などを名簿でチェックする等配慮した。 ・しかし、年間を通してまんべんなく行うこ</p>	<p>B ●子どもの成長を保護者にしっかり伝えることは、必要なことである。文章、写真は勿論、子どもの成長を生で見せることも大切にしてほしいと感じる。 ●どこの職場でも「報告」「連絡」「相談」が大切である。情報を共有する意味について考えていると思う。年齢も経験年数もそれぞれ異なる人たちが一緒に仕事をしているので「報・連・相」がし</p>

	<p>かを具体的に挙げ（偏りが出ないようにチェックする等）、各保育教諭が違う対応にならないよう、情報を共有し進める。</p>	<p>とが出来なかったクラスもあるなど、クラスごとに差が出てしまうこともあったため、それぞれの家庭がより安心して預けられるような具体的な工夫と現状の確認体制を整えたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3歳以上のクラスでは、「幼稚園部門」「保育園部門」が、一緒に生活を送っていくが、特に「保育園部門」の方々へのお知らせや連絡が不足していた部分や行事の日程など配慮不足な面があったため、次年度も保護者の皆さんが、安心し理解しやすい工夫と努力をしていく。 	<p>やすい雰囲気づくりをすることで、連携強化に繋がっていくと思う。</p> <p>☆書面での連絡は、カレンダーになるべく書き込むか、必要に応じて「保育園部門」へ別紙の文章を作るしてほしい。</p> <p>☆書面では、伝わりにくい場合も多いので、保育園部門との面談を実施してほしい。</p>
--	--	--	---

5 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法	関係者評価	
		評価	意見等
① 乳幼児理解を深め、乳児と幼児の積極的な交流	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、取り組み方などが見出せた頃に、年度が終わってしまったため、その反省や評価点などを活かし、さらに子どもたちにとって良い関わりが生まれるようにする。また、これらの活動をするにあたり、保育教諭同士が各年齢の育ちや状況などを細かく学び合う機会となるようにしたい。 	A	○取り組み方や方法が見出せたことは大きな一歩であると考えている。さらに理解を進めるために、今後も研修に励んでもらいたい。
② 保育環境整備や環境構成の創意工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の取り組みにより、各保育教諭の意識が高まったことから、それを活かしてさらに良い環境創りが出来るよう考えている。 ・保育室内の中での小さな工夫から、園全体の環境整備も含め、意識をもって 	A	☆小学校では、札幌らしい特色ある学校教育の中にある「読書」に力を入れているので、

	<p>取り組みたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵本についても、今年度から継続してよい環境を作れるようにしたい。 		<p>幼いころから本に親しむように環境を整備し、小学校に接続してほしい。</p>
③ 保護者理解と連携の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度も努力してきた部分ではあるが、新たな課題が見えたり、対応を考えなければならない面が出てきているため、引き続き努力したい。 	B	<p>●何が課題か、今後どんな対応を考えているのか、具体的な記述が必要である。</p>
④ 保育教諭の研修への積極的な参加	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、参加必須の研修や、園として参加したほうが良い研修を受けるとい受身な参加姿勢がほとんどだったため、各保育教諭自身がより意識して、自分のスキルアップのために研修を積極的に受けられるような体制を整えたい。 	A	<p>☆研修が自分のため、子どものため、園のためになるという「よさ」が表れるように、研修について工夫・改善してほしい。</p>